

慶應ビジネス・スクール(KBS)同窓会

2011年5月

K3期日より

K3 大野慎一

1. 東日本大地震の被害地に居住する我がサンゴロー会の仲間達とは、地震と津波の後しばらく電話が通じず心配しました。その後の連絡ではそれぞれご家族ともども無事だったことを確認。しかしながら、被害地の真っ直中にある会社や店舗などが大きな被害を受けたことなど、これからの復興に頭が痛い切実な悩みが伝えられました。サンゴロー魂で頑張りたいと心から願っています。
2. 同期の曾根氏が去る2月25日に現役KBS学生の前で、OB講演第1回目の荣誉を担いました。我がサンゴロー会としても大変名誉なことで、KBSとしては今後もOBを招いての講演を企画しているそうです。



曾根氏は三井信託銀行からKBSに派遣され、卒業後には訪米して現地の各種大手金融機関で学びかつ活躍された経歴を持っています。帰国後は大変得難い職歴を経ながら著作活動にも力を入れ「プライベート・バンキング」ほかを出版して現在に至っています。

講演は日吉新校舎の素晴らしい階段教室で行われ、現役のKBS学生のほか先生方や、昨年のタイムケースオープンの全国集会でお世話になった事務局の方々も出席され、サンゴロー会からも青山氏と山田氏が応援参加しました。

参加者の感想では、大変興味深い迫力のあった内容であったと好評でした。学生達にとって通常の授業とは違うこの企画は河野校長先生のご発案との由、今回の成功で今後に繋げるとのことでした。



以下は、講演の報告を曾根氏に書いて貰ったものです。

「KBSの河野校長先生は“KBS卒業生はいまや3000人を越え、これは数あるビジネス・スクールの中でKBSが誇るものであり、今後はこの絆を大切にしたい。”と考えられ、その手始めとしてOBから学生に対して講演をして欲しいとの構想を持っておられた。

小生の講演のテーマは「米国金融危機の真相—現場からの証言」として、これまでのメディア、エコノミスト、大学の教授陣が言及していなかった金融危機を起こ

した元凶、つまり、グリーンSPAN元FRB議長の金融政策の失敗を米国GDPと国民資産のアンバランスな成長から説明し（経済保存原則）、加えてFRBの金融機関への管理監督不足を指摘したものであった。さらに決定的な判断ミスを行ったポールソン財務長官を1065年の山一証券の救済に動いた田中角栄大蔵大臣と比較し、意思決定における英知と直感の側面を披露した。

本講演には慶應義塾大学経営管理学会も共催者として応援をして頂いた。

この度は私にとって35年ぶりのKBS訪問であったが、今では起業を目指す学生、世界各国からの多くの留学生などと我々の時代とは大きく学校は変貌し、逞しくなっていることを知った。目下はこれら起業を試みる学生諸君にOBとしてのノウハウを積極的に提供したいと努力をしているところである。」(曾根一興)

